



「北海道文学」の可能性

「現代北海道文学論 — 『北の想像力』の可能性」(北海道新聞連載) 完結記念

北海道新聞夕刊文化面で、2015年4月から連載された「現代北海道文学論 — 『北の想像力』の可能性」が2017年12月末で完結します。33回に及ぶ連載では、荒巻義雄、池澤夏樹、円城塔、佐藤泰志、清水博子ら北海道ゆかりの作家とその作品だけでなく、アイヌ民族やサハリン先住民族の文学などにも視野を広げました。

《対論「北海道文学」の可能性》では、連載の企画・監修を務めた文芸評論家・ゲームライターの岡和田晃さんと、札幌在住の文芸評論家・川村湊さんを迎え、「北海道文学」と「風土性」というテーマや、現代に「北海道文学」を読み直す意義などを語り合っています。

(進行・北海道新聞文化部編集委員 古家昌伸)



岡和田晃

おかわだ・あきら 文芸評論家、ゲームライター、大学非常勤講師。1981年、上川管内上富良野町生まれ。早稲田大学を経て、筑波大学大学院一貫制博士課程修士取得退学。『「世界内戦」とわずかな希望』で、10年に日本SF評論賞優秀賞、14年の『北の想像力〜北海道文学』と『北海道SF』をめぐり思索の旅』(編著、寿郎社)で日本SF大賞最終候補。『破滅(カストロフィー)の先に立つ』で、16年の第50回北海道新聞文学賞創作・評論部門佳作。著書に『向井豊昭の闘争』(未来社)『世界にあげられた弾痕と、黄昏の原郷』(アトリエサード)、『アイヌ民族否定論に抗する』(共編、河出書房新社)など。関東在住。



川村湊

かわむら・みなと 文芸評論家、法政大学名誉教授。1951年、網走市生まれ。砂川南高(現砂川高)、法政大学卒。2004年に『補陀落 観音信仰への旅』(作品社)で伊藤整文学賞、08年に『牛頭天王と蘇民将来伝説』(作品社)で読売文学賞。著書に『日本の異端文学』(集英社新書)『南洋・樺太の日本文学』(筑摩書房、平林たい子賞)『川村湊自撰集(全5巻)』(作品社)『村上春樹はノーベル賞をとれるのか?』(光文社新書)『君よ観るや南の島 沖縄映画論』(春秋社)など多数。北海道新聞文学賞創作・評論部門選考委員。札幌在住。

2018年1月13日(土) 14:00-16:30

北海道立文学館 講堂

主催 北海道立文学館、公益財団法人北海道文学館、北海道新聞編集局文化部

(寿郎社、2014)



入場無料
要電話予約
(先着80名)

☎ 011-511-7655

中島公園 北海道立文学館

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-4
Tel 011-511-7655 <http://www.h-bungaku.or.jp>
施設設置者:北海道教育委員会 指定管理者:公益財団法人北海道文学館